

調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、医師の地域や診療科の偏在をはじめ深刻化する医師不足の実態を把握することにより、今後の島根県における医師確保対策の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の期日

令和2年10月1日 現在

3. 調査の対象

島根県に所在する病院及び公立診療所 { 病院47施設(対前年▲2)
診療所45施設(対前年+4)

※公立診療所のうち特定の者を対象に医業を行ういわゆる施設診療所及び歯科診療所を除く。

(1) 常勤医師数

○島根大学医学部附属病院の基礎系の医師、初期臨床研修医及び休職者（産前産後休暇を含む）を除いている。

(2) 充足率

○島根大学医学部附属病院は、診療機能のほかに教育・研究機能を担っていること等から、「充足率」の集計から従来どおり除外した。

○「必要数」は、現行の診療体制を基本とした上でR3.4.1見込みの必要な人員とした。

○「現員数」は、調査期日現在の人員とし、初期臨床研修医及び休職者（産前産後休暇を含む）を除いている。なお、非常勤医師については、1週間の当該施設の医師の通常の勤務時間により常勤換算とした。

4. 回答状況

有効回答は、47病院と45診療所であった。

5. 結果概要

(1) 常勤医師数の状況

○常勤医師数は1,206人で、前年に比べ32人増加した。

○圏域別の増減数は、松江で4人、雲南で4人、出雲で19人、大田で5人、益田で8人増加し、浜田で6人、隠岐で2人減少した。

(2) 充足率の状況

○県全体の充足率は、必要数1,268.6人に対し、現員数は1041.4人で、82.1%となった。

○前年に比べ、必要数、現員数とも増加したが、現員数の増加率が高かったため、充足率は2.2ポイント上昇した。

○圏域別では、浜田、隠岐は減少したが、その他の圏域は上昇した。

○診療科別では、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科で70%未満となった。